

ロザリオの祈りの黙想 — 福者幼きイエスのマリー=ユジェーヌ神父と共に

祈り: 福者幼きイエスのマリー=ユジェーヌ神父

編・訳: 中山真里 (ノートルダム・ド・ヴィ会員)

はじめに

このマリー=ユジェーヌ神父のロザリオの祈りの黙想は、10年以上前に中山さんが編訳したものです。それが幾つかの教会や教会のグループにおいて使われるようになり、現在に至っています。

今回 PDF にてお配りするにあたり、玄義の表現を見直し、聖書箇所も正確に記しました。(引用: 『聖書新共同訳 旧約聖書続編つき』 日本聖書協会発行)

ロザリオの祈りの唱え方は、女子パウロ会の公式サイト Laudate や、聖イグナチオ教会信仰入門講座のサイト等をご参考にしてください。(Y.Y.)

***** 栄えの神秘 *****

第1の玄義 ご復活

並みはずれて重要な復活という出来事を、福音記者たちはごく簡単に物語っています。弟子達はずっとイエスに従ってきました。しかしゲッセマネに到着すると彼らの心は萎え、逃げてしまったのです。

彼らは自分達を恥じ、打ちのめされました。イエスの愛が彼らの心にあったからです。

そして、イエスは彼らに現れました。

あなたがたに平和があるように(ルカ:24:36)

イエスのご自分の傷を彼らにお見せになり、語りかけられました。

主は生きておられる! そして平和が彼らに注がれました。

イエスよ、あなたが彼らに与えられた平和は、あなたの平和です。ご復活の平和、決定的な平和なのです。

第2の玄義 ご昇天

イエスは去っていかれます。

わたしは父のもとから出て、世に来たが、今、世を去って、父のもとに行く。(ヨハネ 16:28)

わたしたちもまた、神のもとへ行きましょう。わたしたちは様々な試練を通して神のもとへと還って行く神の民なのです。あなたがたの父を見つめなさい。父のもとに行き、その光の下で生きなさい。あなたがたの父はあなたがたを愛しておられます。

そして父のもとに昇りながら、イエスはわたしたちを未来へ送り出されます。

「あなたがたの上に聖霊が降ると、あなたがたは力を受ける。そしてエルサレムばかりでなく、ユダヤとサマリアの全土で、また、地の果てに至るまで、わたしの証人となる。」 こう話し終わると、イエスは彼らが見ているうちに天に上げられた。(使徒:1:8-9)

この大きなうねりの中に入りましょう。信仰によって。

第3の玄義 聖霊降臨

五旬祭の日が来て、一同が一つになっていると、突然、激しい風が吹いて来るような音が天から聞こえ、彼らが座っていた家中に響いた。そして、炎のような舌が分かれ分かれに現れ、一人一人の上にとどまった。すると一同は聖霊に満たされ、“霊が”語らせるままに、ほかの国々の言葉で話した。(使徒2:1-4)

聖霊降臨の朝、聖霊は弟子達の上に降り、彼らを使徒とされました。それ以降、聖霊は教会の中におられます。聖霊は教会の設計者、働き手。いのちであり、魂です。キリスト者であるとは、聖霊に身を委ね、常に聖霊と共にいる人のこと。日々の生活のごくつましい仕事に愛を込めて携わるなら、わたしたちは教会を建設していることになるのです。

イエスよ、わたしは あなたの愛の霊のうちに身をおきたいのです。

第4の玄義 マリアの被昇天

マリアは人生の最期を迎えました。めぐみは彼女を包みこみ、天へと運び去ります。キリストの母、教会の母はその母性において栄光に輝いています。マリアはわたしたちに身をかがめ、彼女のもとへと引き寄せます。

マリア、めぐみに満ちた方、わたしたちのために祈ってください。

第5の玄義 マリアの戴冠

サルベ・レジナ(あわれみの母)、愛とあわれみ、母の優しさに満ちた方、マリアの愛は常に生き生きしており、マリアの子どもが苦しみの闇の中にありとき、彼女は目覚めて子どもを見守ります。彼女はもっとも深い闇夜を照らす星だからです。優しく輝くことでしょう。

マリアの生き生きとした愛が、わたしたちの光、希望、そして力となりますように。

聖書 新共同訳:

(c)共同訳聖書実行委員会

Executive Committee of The Common Bible Translation

(c)日本聖書協会

Japan Bible Society, Tokyo 1987, 1988